

主体的に学習に取り組む児童の育成

1 研究のねらい

名古屋市の学びの基本的な考えを示した「ナゴヤ学びのコンパス」では、児童は「有能な学び手」とであると理解するよう求めている。本校では、有能な学び手である児童が主体的に学べるように、自分に合った学び方や学習方法を身に付けていけるように授業実践を積み重ねて、本年度で3年目を迎える。

以上の考えの根拠となったのは、名古屋市の努力目標及び重点事項において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、児童一人一人の特性や学習進度や到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「個別最適な学び」と、ペア、グループ、同じ課題など、他者と関わる場を設けて、気付きを促したり、考えを深めたりする「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが記載されているところにある。

本校では、一昨年は「個別最適な学び」を、昨年度は「協働的な学び」に焦点を絞り、担任をもつ教員全員が授業実践を行った。その結果、ICTを効果的に活用したり、自分に合った課題を選択したり追究したりして児童自身の学習スタイルを形成することができた。また、仲間と学び合うことで、学び続ける大切さを実感できたことが成果に挙げられる。しかし、有能な学び手である児童に、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などの形成が不十分であると、自信をもって主体的に学び続けようとすることは難しい。

なので、計画的、発展的に、児童を有能な学び手に育てる教師の指導によって、学習課題を解決できるように意識をもちながら研究を進める必要がある。

そこで、課題克服を目指し、今年度も担任をもつ教員全員が指導案を作成して、主体的に学習に取り組む児童の育成を目指して授業実践を積み重ねていきたい。

【主体的に学習に取り組む児童に迫るために】

「ナゴヤ学びのコンパス」の考え方を基にして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、学習課題を解決できるようにする。